

和歌山県 BBS 連盟が取り組んだ 薬物依存からのリハビリテーションについて

Rehabilitation From Drug Dependence with the Wakayama Prefectural Federation of 'Big Brothers and Sisters' Associations

客員教授 高垣 晴夫

1. はじめに

この度、大阪河崎リハビリテーション大学の客員教授を拝命しました高垣晴夫です。どうか皆様方のご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

本寄稿では、リハビリテーションが大切な BBS 運動について説明させていただきます。

2. BBS 運動について

日本での BBS 運動 (Big Brothers and Sisters Movement) について説明します。

BBS 運動は、ニューヨークの少年裁判所の書記であったアーネスト・クールターというひとりの青年が、1904 年 (明治 37 年) 「彷徨える少年の兄のように、彼らとともに世の中を歩んで行こう」と呼びかけて始まったメンタリング運動です (日本では BBS、米国では BBBS と表記される)。1913 年 (大正 2 年) には日本でも紹介されています。そして第二次世界大戦直後の 1946 年 (昭和 21 年) 夏、彷徨える少年たちを憂いた立命館専門学校 (現立命館大学) 3 年生永田弘利学生からの一通の投書がきっかけで、1947 年 (昭和 22 年) 2 月 22 日、京都府の学生達が運動の先駆者となり京都学生保護連盟を発足させたことにより、今日まで続く日本での組織的な BBS 運動が始まりました。

現在、日本の BBS 運動は他の更生保護団体 (保護司、更生保護女性会、協力雇用主等) と協働して、法務省の更生保護事業に協力するとともにその働きかけの対象を広げ、非行を始め社会適応に悩む多くの青少年に同世代の兄や姉のような存在として一緒に悩み、一緒に学び、一緒に楽しむ、共感を大切にしたボランティア活動を展開しています。

これらの活動をする BBS 会員の会員綱領は次の通りです。

- 一、BBS 会員は、友愛と良識をもって、非行少年のよいともだちとなります。
- 一、BBS 会員は、すべての人の信頼と尊敬を受けるよう、自己の反省と錬磨に努めます。
- 一、BBS 会員は、明るい社会の建設に寄与します。

この綱領を大切にして、現在全国で 4,400 人 (2022 年 1 月 1 日時点) の BBS 会員が、それぞれの地域 (451 地区会) で青少年たちの交流を通じた居場所づくりや非行のない社会環境づくりのための活動をしています。全国の BBS 会員 4,400 名の半数に当たる 2,149 名は大学生らによる学生会員です。

3. 更生保護とは

このように、BBS の活動は、刑事司法における更生保護の役割も担っています。更生保護とは、犯罪をした人や非行のある少年を社会の中で適切に処遇することで、その再犯・再非行を防ぎ、自立・改善更生を助けるとともに、犯罪を生まず立ち直りを応援する社会の実現を目指した犯罪予防活動等を行うもので「社会内処遇」といいます。これに対して、刑務所等の施設での処遇を「矯正処遇」や「施設内処遇」といいます。

4. 和歌山県内での BBS 運動の活動について

和歌山県内では、1953 年 6 月 1 日に県内初の BBS 運動の団体として「和歌山 BBS 会」が発足しましたが、その後全

国の BBS 運動団体が統合され、日本 BBS 連盟が誕生したことにより、同様に和歌山県でも再編成が行われ、1957 年 6 月 24 日に和歌山県 BBS 連盟が設立され、現在に至るまでの活動を行っています。

次に BBS 運動の理念と活動の特徴について説明します。

BBS 運動は、前述したように「非行や犯罪のない明るい社会の実現」を目的とした、自立支援のための青年の奉仕活動で、友愛とボランティア精神を運動の理念とし、少年と同じ目の高さで共に学びあうこととしています。そして、そこから生まれてくる共感により、全ての人の心に寄り添うことを最も大切にして運動を行っています。和歌山県 BBS 連盟ではさらに「安全・自由・自信」を活動評価の三原則に据えて、少年たちと共に遊び、共に学び、共に立ち直りをめざした色々な活動を行っています。

「全ての人にリカバーできる社会を」をキャッチフレーズに「社会の中での実践を通じ本当に役に立つことをめざして」加盟している 6 つの地区会（和歌山市、高野山、九度山町、海南地区、有田地区、和歌山大学）が、それぞれの地域で地元の文化を取り入れた個性のある活動を展開しています。

さらに、和歌山県 BBS 連盟では、BBS 運動は人権尊重そのものであることを心に据えて公益財団法人和歌山県人権啓発センターと協働した活動をしています。中でも、人権啓発ビデオ「ブレイク リカバーできる社会のために」（2005 年制作・VHS・上映時間 30 分）に出演するなどした広報活動は特徴的な活動です。この作品は、自らの心をストレスから解き放ち、豊かな気持ちで互いの回復をたすけあう「リカバーできる社会」を実現するためには、今何が必要なのかを、いくつかの活動と回復の現場での取材を通して、忙しい日常から少し離れてみることで、そのヒントを考えてみるという内容です。

現在では、視覚による BBS 運動の広報活動として YouTube に「和歌山県 BBS 連盟」のチャンネルも開設しています。

5. 薬物依存からのリハビリテーションについて

和歌山県 BBS 連盟は、BBS 運動の特徴である「立ち直りの支援活動」として、特に 2003 年度から、薬物依存者の立ち直り支援について具体的な取り組みを始めています。これは、和歌山県が他の都道府県に比べて人口比にすると著しく覚醒剤事犯対象者の発生率が高いことに起因しています。

その内容は、薬物依存からの回復についての相談員養成講座を開催し 2004 年 11 月には、夜間の薬物相談電話「ドラッグリカバリーライン」（電話番号 073-423-4951）を開設するとともに、薬物依存者の回復と自立を支援する活動のネットワークを構築し、具体的な支援活動を今日まで続けています。

「ドラッグリカバリーライン」は 2005 年～2016 年までは和歌山県からの委託事業として運営し、以後は和歌山県 BBS 連盟の事業として様々な相談も受ける相談電話として運営をしています。他にも薬物依存者の回復と自立支援の活動として、1985 年に東京で発足したダルク（薬物依存者のための民間リハビリ施設）の活動を和歌山で展開しようと 2005 年 2 月に「和歌山ダルク」を支援して開設しています。

薬物依存者の自立活動を支援するネットワークとしては、和歌山県薬務課、和歌山保護観察所、和歌山県保健福祉センター、保健所、精神科医、弁護士、和歌山ダルク等と連帯して、実務の担当国会議等を和歌山県薬務課の呼掛けで開催して頂き、現在も薬物依存当事者の見守りと支援を行っています。

また、BBS 会員は、和歌山県薬物乱用防止指導員として、中学・高校の薬物乱用防止教室の講師となり子ども達に話しをすると共に見守りの活動と「ドラッグリカバリーライン」の周知を行っています。

このような活動により、BBS 連盟には薬物依存者の自立活動を支援するネットワークから依存の当事者や家族から、相談があり相談に答える形で支援をし続けています。

しかし、現在も和歌山県では人口比で、覚醒剤事犯対象者の発生率が高い状況が続いています。このような活動を現在まで続けてきた中で振り返ると「非行や犯罪のない明るい社会の実現」を目的にした BBS 運動の理念を尊重し、具体的かつ確実な活動が継続して実施できるようにと、高野山 BBS 会員が中心となって、この BBS 運動の分野では日本で初めてとなる NPO 法人を 2005 年に設立し児童擁護施設を開設したことは、BBS 運動に留まらず居場所が見つけない子ども達の支援の新たな手段として、その後和歌山県内での児童擁護施設の開設推進にとっても有意義なことであったと感じています。

その後も、県内の BBS 会員により 2 つの NPO 法人と 1 つの一般社団法人が和歌山県内で設立され現在活動をしています。私個人の願いは「全ての人々が命を全うできる世の中であってほしい」ということです。人の命が失われたり、傷

つけられたり、いじめられたりすることはとてもつらく悲しいことです。そのために、私が行ってきたことと、大切にしている想いのベクトルが、このBBS運動と同じであったことは大変嬉しく、今でもこの運動を支援し続けていられる一番の理由です。また、この想いは平和文化を創造し続けるユネスコ運動にも通じるものがありユネスコの活動とも連携をしています。そしてBBS運動とユネスコ運動この2つの運動を結びつけた具体的な活動として「甦り」を接点とした「熊野古道を世界遺産に登録する運動」がありました。和歌山県の歴史文化から考えた活動です。過去に行われた熊野古道をキャンプしながら歩く熊野ネイチャーヒーリング事業では、生きづらさを抱えた子ども達と自然に囲まれた熊野古道を歩くことで「気分が楽になった」や「スカッとした」という感想を得ています。

繰り返しになりますが、私の想いはただ一つ「全ての人々が命を全うできる世の中であってほしい」ということです。仕事も含め、この想いにつながることであれば、出会ったものは「縁」と考え、「行」とも考え、できる限りのことをこれからも続けていきたいと考えています。

さて、和歌山県BBS連盟は「いろいろなことをいっぱいしているな」とよく言われます。和歌山の地域が持つ文化伝統には、全てのものを受け入れる精神があり、それが人々に「安心な居場所」となり「癒し」を与え続けています。それは、今でも受け継がれ、世界中の傷つき、そして立ち直ろうとする人々を、この地の癒しの力によって支援をすることが、そこに暮らす者の使命と考えいろいろなことをしています。

今この思いで、和歌山県内で若者たちの地域活動を観ると、本当に頼もしい限りです。しかし、一方では、自殺による死亡率が高いと言う現実があり、なぜ？ どうして？ といつも考えさせられてしまいます。

昨今では、社会の雰囲気もかなり様変わりをしてきました。DXの推進に繋がるITの普及により机の上にはパソコンが置かれ、コミュニケーションの手段も会話より、スマートフォンや携帯電話による電子メールで行うことの方が多くなりました。コロナ禍によりZOOM等が普及して世界中の人々と家に居ながら会議が可能となり、勤務形態としてテレワークが一気に普及し会社では役員制度や年功序列制度の廃止、能率給や年俸制の導入により職場の人間関係も複雑になってきています。このような中で一人あたりの仕事量は増えているのに、労働時間、残業時間の切り詰めは一段と厳しくなると言う現状では、仕事上のストレスは大きくなる一方です。それに伴い病気休暇の理由の中で精神疾患の占める割合も大きくなってきており、仕事上のストレスによる事件や事故そして自殺などといった精神的な問題が全国的になってきています。特にストレスから、安心できる居場所がなくなり、自己のコントロールを失い薬物などに依存することで安心な状態を得ると言う依存症になる人が多くなる現状があります。依存症ですから治療が必要です。犯罪となり刑に服しただけでは根本的な解決にはなりません。依存症の人は依存状態を否認することが多く「いつでも止められるから、依存ではない。」と言います。本人が、「このままではダメだ」と感じる「底つき」が依存に向き合うためにとても大切な過程で、自らの問題であるが自らだけではどうすることも出来ない問題であることに気づいてもらい、自らの意志で治療を受けてもらうことが大切です。

6. 最後に

依存症は、精神的なことであるので精神科医や精神保健福祉士の分野だと思われがちですが、生活行為能力の向上のための作業療法や身体機能・基本動作能力向上のための理学療法、そして、コミュニケーションを支援する言語聴覚での支援がとても重要になってきています。

昨今の「生きづらさ」の中を「生きていく」ためには、これからも社会の中でのリハビリテーションをみんなで一緒に進めてゆくBBS活動は大切な活動です。

この度、和歌山県BBS連盟は「麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動」の一環として、麻薬・覚醒剤等の薬物乱用防止活動に顕著な功績を示した団体として、令和4年11月18日「厚生労働省医薬・生活衛生局長感謝状」を戴きました。

今回は和歌山県内の活動についてのご紹介でしたが、全国で展開しているBBS活動に関心をもたれた方は、是非下記にご連絡いただければ幸いです。

連絡先

メー ル: takagaki@kawasakigakuen.ac.jp

携帯番号: 090-1154-5330

高垣晴夫